

令和4年度自己評価結果

習志野みのり幼稚園

令和4年度の活動を振り返り、教師一人ひとりが自らの教育活動や状況を客観的に評価いたしましたので、その結果をご報告いたします。

令和4年度は、コロナ禍以降の新しい生活様式が定着する一方で、新型コロナウイルスとの共存が進み、また感染防止対策が緩和されたことでコロナ禍前に近い形で教育・保育活動や行事を行える機会が増えました。行事の再開においては、従来の内容を踏襲しつつ、コロナ禍で見直した行事の在り方を取り入れ、より良い形で開催できたのではないかと思います。

また、コロナ禍で改めて認識させられたことも多数ありました。幼児期に必要な体験や活動の実現のために必要なこと、そのために園として、あるいは一教師としてできること、従来からの教育・保育を踏襲するだけでなく、よりよい教育・保育を提供するために時には見直しが必要であること、などは、非常に有意義な気づきとなりました。これらの経験は、令和4年3学期(令和5年1月)から始まった園舎建替え工事期間の保育方法を検討する際にも大変役立っています。

令和4年度の評価結果を深く受け止め、これからも伝統を大切にしながら進化する「みのり幼稚園」であるために、より良い保育環境の整備、更なる教育活動の充実、教師の資質向上に努めてまいります。

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、ご理解、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

1. 本園の教育理念・目標

教育理念： 知育・徳育・体育の調和のとれた人間性豊かな子どもを育てる。

教育目標： 明るく元気な子ども

やさしく思いやりのある子ども

よく考え、工夫する子ども

2. 本年度、重点的に取り組んだ目標・計画

評価項目に従って自己点検、自己評価を実施することによって全ての職員が自園を見る目を養い、教育内容、教育環境の設定の改善に主体的に取り組む。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況	評価
幼稚園教育要領、子どもの実態をふまえた教育課程の作成、保育をする。	子どもの実態をふまえた教育やカリキュラムを組むことは概ねできているが、幼稚園教育要領への理解の程度は、個人により異なる。個人の理解をさらに深めるとともに、全体の理解の程度を高めていく必要がある。	C
子どもの実態を的確につかみ具体的な日案作成をする。	子どもたちの成長度合いや様子、行事や学年ごとの制作等のスケジュールを考慮しながら日案作成することは概ねできている。また、子どもがリフレッシュできる時間を設ける、当日の子どもたちの様子や天候に合わせて日案を変更するなどの臨機応変な対応ができてきているケースもある。	B
正しい姿勢、バランス感覚が身につくような声かけ、取り組みを行う。	朝の集まりや話を聞くときの姿勢に対する声かけは、できている。担任による漢字や鼓笛時にも正しい姿勢を身に着ける取り組みをしている。 また、専門講師による幼児体育、サッカー、剣道、新体操などの活動を通じて正しい姿勢やバランス感覚を養っている。	A
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	食事・手洗い・排泄などの基本的な生活習慣に加え、着替え・身支度などを自分でできるように年齢に合わせた指導をしている。また、定期的に看護師や管理栄養士による特別授業を行い、保健衛生や食に関する指導も行っている。	A
安全で興味の引く保育環境を用意する。	子どもたちが安全に楽しく過ごせるように保育室や園庭、遊具の安全管理に十分注意した。 子どもの好奇心を尊重し、学ぶことの楽しさを実感できるようにオープン教育を取り入れているが、今年度はコロナウイルス対策でクラスオープンになることもあった。 各クラスでは、子どもたちが楽しく過ごせるように担任が工夫して保育を行っている。	B
子どもの良さを認めて評価する。	子どものよいところ、頑張ったところ、できるようになったことは評価し、褒めるように心がけ、実践できている。 また、クラス全体を褒める、頑張ったことを他児と共有するなど褒め方に工夫しているケースがある一方で、もっと褒めてあげればよかったと反省するケースもあった。	B
日常会話、季節の歌、読み聞かせ、制作を通し表現力を養う。	季節や文化を学びながら豊かな表現力や想像力を養えるよう、子どもの成長度合いに合わせ、歌唱、絵画、制作などの活動をしている。各クラスでは、紙芝居、読み聞かせ、読書(絵本の時間)、季節の歌を歌う時間を設け、子どもたちの表現力やコミュニケーション能力を育むことを大切にしている。 また、制作をする際は、意味を教える、会話を取り入れる、さまざまな材料を使うなどの工夫をしている。	B
遊びを通して工夫したり協力したりする姿を見守り、援助する。	学年によって子どもへの関わり方は異なるが、基本的には子どもの想像力、自主性、協調性を尊重し、見守りつつ、時には援助をしている。 また、トラブルを未然に防げるように必要に応じて援助や手助けをしている。	B

評価項目	取組状況	評価
各クラスで起きた事案を園全体で共通理解しそれぞれの保育に役立てる。	大きな怪我・危険なことについては、園全体で共通理解し、事案に対する対応はできている。各クラスで起きた事案の報告、学年での共有は概ねできているが、園全体での共通理解に至らないケースもあり、「園全体で共通理解すべき案件」の要件についての共通理解も必要と思われる。 ケガ・病気については看護師に任せているが、タイムリーな情報共有について検討したい。	C
学期ごとに各クラスの経営の成果と課題を報告する。	保育者は、学期ごとに反省・振り返りを行い、園長にレポートを提出している。重要な事項については、園として対処しているが、それ以外は個人・学年での改善に任せている。 定期的に学年会を開き、状況報告、相談を行い、保育に役立っているが、学年によっては報告・相談する機会が少ないように見受けられた。	C
各職員が研修会に参加し他の職員へ伝え、その成果を保育に生かす。	対面式の研修には参加できなかったが、オンライン形式の研修には参加できた。同じ研修を複数人で受講しているため、その内容や成果を伝える機会はほとんどなかった。	C
園だより等をとおして幼稚園の情報を発信していく。	毎月、クラス便り・学年便り・行事予定表を発行し、幼稚園の情報を発信している。 そのほかにも、みのりっこだより(不定期)、保健だよりがあり、園からはさまざまな情報を発信している。更に必要に応じてお知らせ(紙、れんらくアプリ)を出して、タイムリーな情報提供を心掛けている。	B

<評価の基準> A:十分に達成されている、B:達成されている、C:取り組まれているが成果が十分でない

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

総合評価: B

各教師が目標・課題を理解し自己評価することにより、個人の課題だけでなく園として取り組むべき課題を認識し、改善していく意識が芽生え、取り組むよう努力する姿勢がみられた。

5. 学校関係者(保護者)からの評価

- ・ 感染症対策で運動会の観覧方法が変わったが、かえって良かった。
- ・ れんらくアプリ等を活用したペーパーレス化が進んでいるが、行事予定は紙で欲しい。

6. 今後、取り組むべき課題

幼児教育の大切さ、園や教師が担う責任を再認識し、子どもの健やかな成長を支えることができるように伝統を重んじながら、よりよい方向に進化できるよう努力していきたい。

全ての教師が自園を見る目を養い、教育内容、教育環境の設定の改善に取り組み個々人の意識レベルを向上させるだけでなく、園単位(組織)での活動、情報共有の仕組みづくりにも取り組んでいきたい。

また、より安心・安全な教育・保育を実施するための環境設定、各教師の資質の向上にも努めたい。

(具体的目標)

・ 安全管理

毎年、引渡訓練と防災訓練を実施しているが、災害時の各教職員の対応訓練、不審者対応訓練が十分ではないので、今後は実地訓練を行いたい。

・ 教師の資質の向上

オンライン研修を取り入れるなど、教師が研修に参加しやすい環境を整えるとともに、教師一人ひとりの資質向上に対する意識付けをしたい。

・ 情報の共有化

IT化を進めながら、クラスで起きた事案、トラブル、怪我や病気等保育に関する情報の共有化、研修資料等保育技術に関する資料の共有化を図る。